

コロナ禍を生き抜く子ども食堂 開催 100 回を迎えた心の子どもごはんを参考に

竹腰晃太

論文要旨

本稿は、子ども食堂が継続して運営するためには何が必要であるか、また、コロナ禍を乗り切るにはどうあるべきかを明らかにする。これまで関わってきた子ども食堂へのアンケート調査に加えて、子ども食堂が運営する Facebook の記録をデータ化し、分析することにより、子ども食堂の特徴や成り立ち、その変化に一定の傾向を見出すことができた。

本稿で取り上げる子ども食堂は、名古屋市守山区の「心の子どもごはん」である。心の子どもごはんは 2016 年 9 月に開始し、2020 年 12 月に開催 100 回を迎えた。NPO 法人全国子ども食堂支援センターむすびえの調査によると、2020 年 12 月時点で子ども食堂は全国に 5,086 カ所確認されているが、心の子どもごはんが発足した 2016 年は全国に 319 カ所だった。活動が劇的な広がり方をしていく中で、子ども食堂を取り巻く環境も変化している。その活動が世間に浸透しているかいないかでは、地域や住民の理解の度合いや支援の量も違いがある。心の子どもごはんを参考にすることで、活動の先駆けとして地道に歩んだ貴重な記録が、継続するための子ども食堂の強い根拠になるのではないだろうか。心の子どもごはんの歩みを頼りに、より多くの子ども食堂が長く続く居場所であるための助けになるような要因を明らかにしていく。

1 食堂のキャパシティと利用者人数の関係

冒頭から私事で恐縮だが、筆者が大学生活の中で最も長くかかわった子ども食堂は、名古屋市守山区の「心の子どもごはん」である。ここでは、『コミュニティカフェと地域社会』の著者、社会福祉学者、倉持香苗が指摘する居場所づくりにおいて必要不可欠な要素であり、継続して運営するための課題の 1 つとされる「利用客の確保」を手掛かりに、心の子どもごはんの継続的な運営を可能にしている要因について検討してみたい。

1.1 利用者の人数推移からの推論

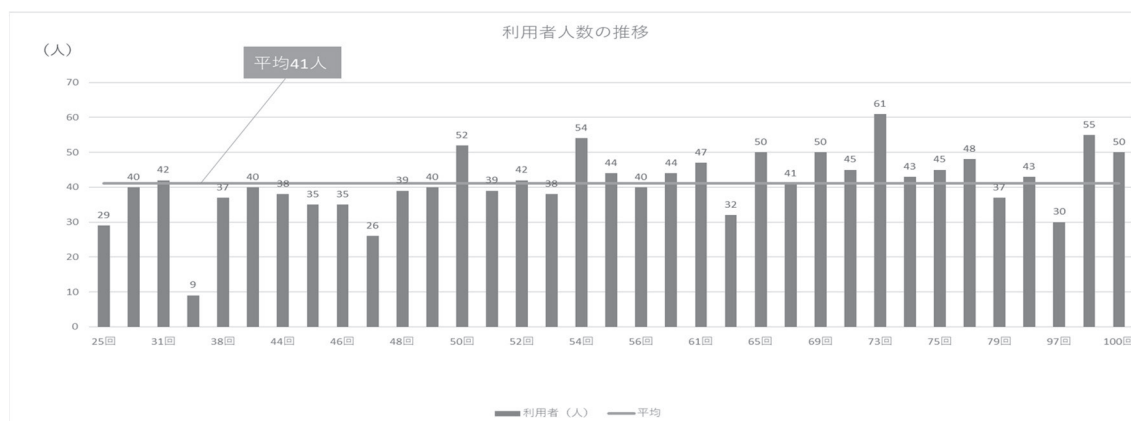


図 1 参加者の人数推移

心の子どもごはんの Facebook に記載されている参加者データをもとにまず参加者の人数推移について分析を行った。その結果、参加者の平均人数は 41 名であった。41 名という数字を決定づける要因は会場のキャパシティが最も大きいと考えられる。「心の子どもごはん」の開催場所は代表の中村晴彦さん、中村千加子さんご夫婦の営まれている飲食店「喰い処 心」のスペースを利用している。席数は 4～6 名掛けのベンチシートが 1 卓、4 名掛けの掘りごたつが 2 卓、そしてお店では使われてない図書スペースに 4 名掛けが 1 卓と 2 名掛けが 1 卓。このスペースを 18 時～20 時の間で 2 回転して利用者を入れている。1 回の子ども食堂で空席を作らずに利用者を入れた場合の参加者の定員は 41 名である。つまり、この 41 名という人数は心の子どもごはんのキャパシティで収容できるおおよそ最大の人数であることがわかる

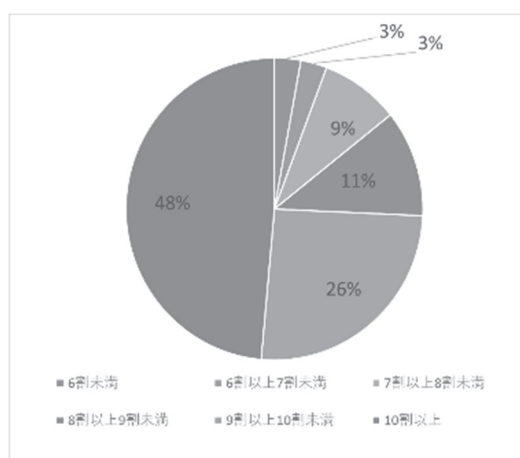


図2 集客率の割合

筆者はこの 41 名を集客率 100%と仮定した時の、集客率別の割合をグラフにした。集客率 6 割未満が 3%、6 割以上 7 割未満が 3%、7 割以上 8 割未満が 9%、8 割以上 9 割未満が 11%、9 割以上 10 割未満が 26%、そして 10 割以上が 48%という結果であった。総合的に見て集客率が 8 割以上である回が約 84%を占めているので「利用客の確保」が十分に達成できていると言える。

1.2 定員を超えた回の対応

では、参加希望者が定員より多かった場合はどうだろうか。41 名を定員とした時、定員を上回った回が 48%であった。数名上回るくらいであれば相席をお願いし、席を詰めて座ればどうにかなるかもしれないが、10 名を上回ると対処しきれないのではないかと。しかし、7 回ほど上回っている回が心の子どもごはんにはある。そのうちの 5 回の参加人数が多かった理由とどのように対処したかを調査し比較する。

～第 50 回～

日時：2018 年 10 月 6 日

参加人数：52 名（定員 126%）

理由：この日は一か月遅れの心の子どもごはんの 2 周年記念で特別料理の日だった。献立

が「いくら丼」や「豚丼」、「茶碗蒸し」に「デザート」と豪華で参加者が集まる要因の一つと考えられる。またこの回は、タウン誌の「リビング」に掲載された直後の回だったこともある。「2周年記念なのでいつも見える方にも席を取りたい」という中村さんのご厚意もあった。

対処：2周年記念の会でもあり、人も多くなると予想されたので、この日は特別にいつもの18時代、19時代の二回転に17時代を加えて三回転で運営した。

～54回～

日時：2018年12月1日

参加人数：54名（定員131%）

理由：通常回。開催の二日前の時点で予約が40名を超えていたが、当日予約の家庭も受け入れた。その方は今までに何度か他の子ども食堂へ行ったが食べる事が出来ず、心の子どもごはんは予約すれば必ず食べる事が出来ると知って来た旨を聞き、中村さんも断る事が出来ず予約を受け入れた。

対処：この日は筆者を含む学生6名がボランティアに参加しており、一人一テーブルを担当し、お客さんが食事をするまでとした後の作業を効率的に普段より急いで行ったことで、2時間の中でなんとか52名のお客さんを回す事が出来た。

～65回～

日時：2019年6月1日

参加人数：50名（定員122%）

理由：通常回。新しく参加した2家庭を受け入れたため。

対処：50名を超えた回を何度か重ねた経験から効率よく回転する事が出来るようになった。スタッフの対応力の向上。

～73回～

日時：2019年10月5日

参加人数：61名（定員148%）

理由：3周年記念の会の日で、ヴァイオリンコンサートを行った。いつも参加する家庭の他に、継続的な食材の寄付を受けている「ぴんころ男会」や社協の方々も参加し、盛大に催された。

対処：普段とは食事の形式を変えてお弁当を作った。お弁当は前日から準備された。また会場を2階にある公文の教室に移したため普段よりスペースを広く使う事が出来た。食事の形式をお弁当にすることで、食事に使うスペースを削減し、尚且つ広いスペースを使用することで定員の1.5倍の人数を入れる事が出来た。

～98回～

日時：2020年10月18日

参加人数：55名（134%）

理由：単純に予約が多かったため。

対処：40名の方には普段通りの食事のとり方をとってもらい、15名の方にはコロナ禍で定着したお弁当の持ち帰りの形式をとり、テイクアウトしてもらった。

参加者が多かった回の理由は大きく3パターンに分けられる。1つは周年記念などの催しで中村さん側から普段より多くの参加者を募っている場合である。利用者をはじめ心の子どもごはんにとって特別感のある回だ。1か月ほど前から告知をし、開催時間を拡大したり開催スペースを準備したり、またお弁当に変えたりと事前段階での準備がある。その為、月に2回開催する心の子どもごはんにとって頻繁に開催することは困難だ。年に1度開催することで生まれる特別感に意味がある。2つ目は、初参加の家庭が当日や直前に申し込んでくる回だ。心の子どもごはんはFacebookの他に予約を受け付けるLINEを開設しており、一度登録すれば予約開始時に中村さんからメッセージが届く。その際に参加希望の家庭は予約をすればいいのだが、初めて参加する方はFacebookをしっかりと確認しておらず断片的な情報で当日来てしまう事がある。それでも中村さんのご厚意で受け入れていることが何度かある。このような回が成り立つには、食事に余裕があったり、ボランティアスタッフが偶然多い日であったりと、条件が合わなければ難しい。3つ目は人数超過分をお弁当のテイクアウトにした回だ。お弁当はコロナ禍で子ども食堂が開けなかった期間に定着した。食堂での食事はできないが食堂分の定員に加えていくつかのお弁当を用意することでより多くの参加者に食事を届ける事が出来る。

以上のことから定員より参加希望者が多かった回にコロナ禍で定着したお弁当を子ども食堂と並行して準備することで一度に子ども食堂を利用できる人数の上限を増やすことができるのではないかと感じた。しかし、そもそも準備できる食事の数にも限りがある。またお弁当の容器代もかかり、いくらでも増やすということはいかない。無理なく準備できる範囲でお弁当をより定着できれば理想だと感じた。

2 充実した献立を継続できる要因分析

心の子どもごはんにおいて特筆すべき点の1つに充実した献立を挙げることができる。開催100回までのFacebookを振り返る中で、特に印象的なのは、毎回のメニュー数が多くどれも凝ったメニューだということだ。子ども食堂においては「食事」が主役の一つであるだけに、おいしい食事を取れる事が利用者にとっても喜ばしいことであり、継続的に参加したい理由にも直結する。心の子どもごはんは平均的な利用者が多い事が第1章でわかったが、その要因に充実した献立も関係があると考えられる。ここでは、心の子どもごはんのメニューについてもう少し詳しく検討してみたい。

2.1 充実した献立

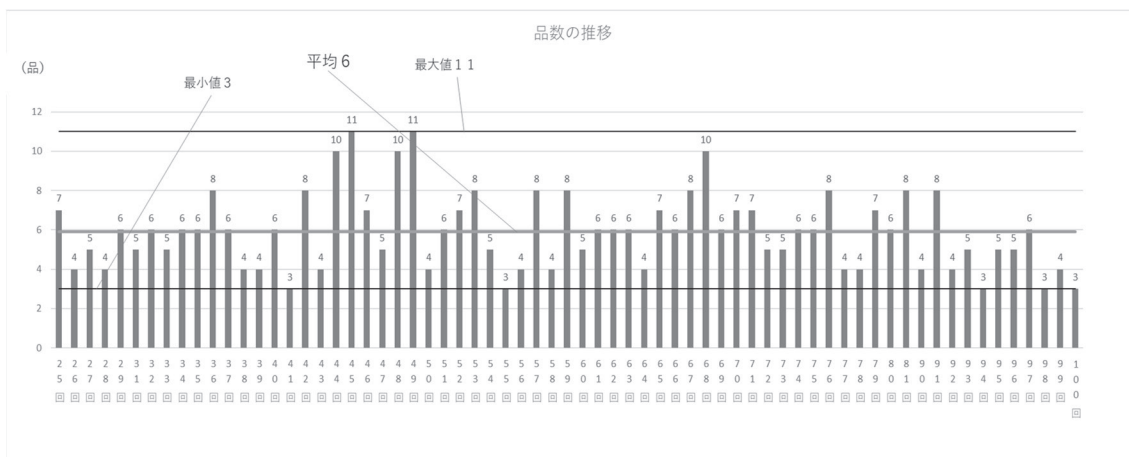


図3 品数の推移

心の子どもごはんの1回あたりの品数の推移を上図で示した。品数の数字に該当する品目は、主食（白米など）、主菜、副菜、汁物、デザート、その他子ども食堂内の食事時に提供されるもので、お土産などはカウントしていない。毎回のメニュー数を統計した結果、一回あたりの平均献立数は6品で、最も多い時で11品（2回）、最も少ない日で3品（5回）であった。

日本の伝統的な食生活では「1汁3菜」という言葉通り、主食と汁物に肉や魚などのメインのおかずを1品（主菜）、野菜や海藻、乾物などの小さなおかずを2品（副菜・副々菜）加えたものが定番で、品数にすると大体3～5品である。健康的な食事をこの1汁3菜とすると、心の子どもごはんでは十分に健康な食事を提供していると言える。では、心の子どもごはんではどのような献立が並んでいるのか。①カレーの日、②支援者との関係、③デザートの有無の3つの側面から、さらに検討してみたい。

① カレーの日

心の子どもごはんでは月2回開催のうち、第三土曜日を「カレーの日」に設定しているため、3品などの比較的品数が少ない回はカレーの日に当たる。カレーは子どもが好んで食べる食事であり、肉、海産物、野菜などの多くの具材が使われており、一品で沢山の栄養を摂取できるため、栄養面においても効果的である。またカレーの種類においても、「シーフードカレー」、「ポークカレー」、「ビーフカレー」など月ごとに味を変えている。このような中村さんの工夫が「今月はどのカレーかな」といった子どもたちの期待を煽り、さらに子ども食堂が楽しみになる要素でもある。3品が比較的少なく見えてしまうが、しっかりとした栄養のある食事が毎回の子ども食堂で提供されているのだ。

② 支援者との関係

平均献立数が多い事からわかるように、心の子どもごはんでは毎回メニューが豊富である。そのために、継続的な食材の寄付の存在も大きい。運営者の中村さんは多くの寄付に対して「せっかく頂いた野菜を無駄にしないように手を変え他の食材をプラスしてバイキングとしてメインの料理のほかに加えます（Facebook_2018年9月2日より）」、「頂いた分をキレイに使い切らないとばちが当たると頑張っています（Facebook_2019年3月3日より）」と、その心情を綴っておられる。この記載からわかるように、中村さんは寄付して

いただいた食材を無駄にしないよう、余すことなく使って沢山料理されるので、寄付が多い月などは献立が盛りだくさんに仕上がるのだ。そして食堂の様子や寄付への感謝を Facebook に載せている。支援者は自分が寄付したものがどのように使われ、どのように役立たされたのかを Facebook からや、実際に参加して確認できる。勿論、寄付された方々は慈善活動を誇示するために寄付をしているわけではないが、第三者の目に触れ良いイメージを持たれることは企業や団体において良い。そして何より中村さんが余すことがないようにと感謝を込めて料理を作られている事が支援者にとっても継続的に支援をする動機になっていると感じた。中村さんは、寄付が多い日などは全部使い切るのに大変な時もある一方、新しい料理をするきっかけにもなっているとおっしゃっている。このように、支援する側とされる側の良好な関係が継続して保たれるためには、主催者の子ども食堂に対するたゆまぬ活動意欲と支援者の支援による充足感があってのことだと感じた。

③ デザートの有無

心の子どもごはんでは、デザートも頻繁に献立に含まれている。調査した 65 回の子ども食堂うちデザートがあった回数は 59 回であった。またデザートの平均数は 1.5 品である。つまり、約 90% の回で、1～3 品のデザートが食べられるということだ。内容はリンゴ、みかん、ぶどう、梨、柿などの果物や、ゼリー、杏仁豆腐、アイスクリーム、ロールケーキなどのスイーツ、そして中村さんの手作りの生ジュースとデザート一つをとっても豊富なレパートリーになっている。果物やスイーツは寄付で頂いたものや中村さんの手作りがほとんどだ。日常的な食事では、デザートはちょっとしたご褒美程度の感覚で、あれば尚良いが毎回の食事には取り入れていないという人が多いだろう。そういった理由からデザートの重要性というのはあまり認識されていないが、実は食事の質を向上させる役割を果たしている。デザートは食事において、日常的な食事では不足しがちなビタミン類など主要な食事から補えない栄養価を補う役割や、甘く風味の良い果物や菓子類で食後の満足感を得るための役割を担う。また好き嫌いのある子どもにとっては、献立に苦手な食材があった際、デザートは報酬的な役割も果たす。そういった点から、高頻度で 1.5 品のデザートを提供することは、「食事の栄養価の向上」、「味覚の満足度の向上」、「残さず食べる意欲の向上」の 3 点を継続的に補う上で非常に重要な役割を果たしているということが分かった。

2.2 運営資金

子ども食堂が継続的な運営をするための課題として「資金の確保」も上げられる。営利を目的としない子ども食堂において、運営資金の確保を課題とする場所は少なくない。その中でも開催目的を「居場所づくり」とする子ども食堂においては、53% が「補助金などを受けなくては運営が継続出来ない」と回答している。心の子どもごはんも「居場所づくり」を目的とする子ども食堂の 1 つだ。心の子どもごはんには活動を知った匿名の方や存じ上げない方から月に約 3 万円の寄付金が寄せられている。年間に換算すると約 36 万円だ。愛知県内で子ども食堂のみを行っている場所の 61.9% が年間 10～30 万円の運営費がかかっている。これらの子ども食堂が月に何回開催されているかは、今回の調査で調べられなかったが、月に 1 回の開催の子ども食堂も含まれているのは確かだ。年間に 6 万円多くかかっているものの、心の子どもごはんが毎月 2 回の開催であることを考慮すれば、運営費用を抑えていると言える。この資金の寄付と食材の寄付が心の子どもごはんの活動の

継続を実現している。

3 何がコロナ禍の子ども食堂の活動形態を分けるのか：愛知県の場合

コロナ禍において子ども食堂の活動は、一斉休校による活動休止後、居場所としての活動再開／休止継続、またはフードパントリーの開催、子ども食堂とフードパントリーの併用といった三つ（四つ）の形態に分けることができる。3章では、私がボランティアで関わってきた子ども食堂の「心の子どもごはん」と「地域食堂“サンクス”」の2020年2月以前と以後の変化に関する実態把握を通じて、これらの活動を規定する要因は何かを明らかにし、それぞれの子ども食堂が望む活動を支援するための条件を考察することを目的とする。

コロナ禍の子ども食堂は、①居場所の確保、②資金と食材の確保、③地域との連携、④人材の確保、⑤感染症対策を含むリスク管理の大きく5つの課題を抱え、それぞれの課題に取り組み、その結果、上記の活動形態への選択を強いられている。

第1に、子ども食堂をいつ休止し、フードパントリーに切り替えたのか、第2に、なぜどういう経緯でそうしたのか、第3に、現状と、これから望む活動形態とそのための課題を明らかにする。これにより、どのような要因がコロナ禍の子ども食堂の活動を規定し、居場所としての再開／休止、または、フードパントリーのみの開催、子ども食堂とフードパントリーとの併用といった活動形態を選ばせているのか、また、様々な課題を抱えながらもそれぞれの子ども食堂が望む活動を支援する為に何が必要かを明らかにする。

表1 国・県による要請

国・県による要請	
2020年2月27日	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の全国一斉休校要請
4月10日	愛知県緊急事態宣言
5月4日	緊急事態宣言の延長
5月14日	国の緊急事態宣言解除
5月25日	愛知県独自の緊急事態宣言の解除

3.1 心の子どもごはん地域食堂「サンクス」の比較

心の子どもごはん

心の子どもごはんは新型コロナウイルスの影響の下、今年3月から4月にかけて子ども食堂の開催は中止し、代わりにお弁当の配布を行った。4月半ばから5月下旬にかけてはお弁当の配布も中止された。6月からお弁当の配布が再開され、7月からは通常通り第1土曜と第2土曜に子ども食堂を開催している。

表2 心の子どものごはん コロナ期のスケジュール

心の子どものごはん コロナ期のスケジュール	
2020年2月27日	全国一斉休校要請

2月28日	子ども食堂の開催中止のお知らせ
3月3日	お持ち帰りのお弁当の配布決定のお知らせ
3月7日	第1回お弁当の日（以後、3月中の毎週土曜日に開催）
3月14日	第2回お弁当の日
3月21日	第3回お弁当の日
3月28日	第4回お弁当の日
4月4日	第5回お弁当の日 毎週土曜が終了→通常の子ども食堂開催日同様、第1、第3土曜にお弁当配布
4月10日	愛知県緊急事態宣言
4月11日	第6回お弁当の日 学校休校により開催
4月18日	第7回お弁当の日 緊急事態宣言によりお弁当配布中止のお知らせ
5月4日	緊急事態宣言延長
5月14日	国の緊急事態宣言解除
5月25日	愛知県独自の緊急事態宣言解除
5月29日	お弁当再開のお知らせ
6月6日	第8回お弁当の日
6月20日	第9回お弁当の日
6月21日	7月から子ども食堂再開のお知らせ
7月4日	子ども食堂再開

3.1.1 「心の子どもごはん」の5つの課題調査

① 場所の確保

「心の子どもごはん」の代表の中村晴彦さん、中村千加子さんご夫婦は飲食店「喰い処心」を営まれており、調理場、飲食スペース共に自前で確保する事が毎回可能である。子ども食堂が開催される日時は毎月第1土曜と第3土曜に固定されており、通常は「喰い処心」の営業時間であるが子ども食堂を優先して開催されている。席数は4～6名掛けのベンチシートが1卓、4名掛けの掘りごたつが2卓、そしてお店では使われてない図書スペースに4名掛けが1卓と2名掛けが1卓。最大20名が同時に食事をする事が出来る。コロナ禍で子ども食堂を開催するにあたって多くの主催者が抱える課題が「場所の確保」であるが、コロナ禍以前にしても毎回公民館や公的施設を抽選で確保したり、場所の確保が安定して出来ず開催日が変則的になる子ども食堂もある。自営業の飲食店をもつ主催者にとって子ども食堂を開くことのできるスペースがあるのは大きな利点である。

② 資金と食材の確保

活動資金については、色々な方（活動を知った匿名の方など第三者）から沢山の寄付がある。毎月約3万円。食材についても、自由に食材を購入する事が出来るスーパーがある。これはスーパーのご厚意の下で成り立っており、「③地域との連携」の1つでもあ

る。

③ 地域との連携

地域団体とのつながりは「あいち子ども食堂ネットワーク」くらいである。ただ、中村さんご自身が高齢ということもあり寄付品を取りに行くことが困難なため、寄付はほとんど受け付けてはいない。その他、夏休みのフードパントリーの際に学区の区政委員長に会われ、子ども食堂への協力要請とチラシの回覧を直接お願いした。

④ 人材の確保

毎回安定したボランティアメンバーが7, 8名参加している。食堂の規模が比較的小さい子ども食堂にとって、ボランティアメンバーが多すぎると、かえってスタッフの手が余るので動線を塞いでしまうことにもなる。その為、現在の人数規模がちょうどよい。

⑤ 感染症対策を含むリスク管理

感染リスク回避のために以下のことを行っている

密を避けるため1テーブル1家族のみの利用

利用後のテーブルはアルコール消毒を徹底

18時代と19時代の2回に分けて案内

1回目後に除菌や換気

参加者の入室前の手洗いの協力

3.1.2 コロナ以前とコロナ禍での利用者の声

表3 コロナ以前の利用者の声

コロナ以前	
子ども	カレーデビューの1歳児「おいしい！」と2杯もお代わり
大人	夫が単身赴任で子育てで大変だったので癒されました
子ども	(中村さんのことを) じーじとばーば
大人	ここで食べる料理はレストランで食べるのよりおいしい
子ども	おいしい！を連呼
大人	ちょ～おいしい
大人	(クリスマスケーキに) こんな丸ごと買えないもの...
子ども	おいしい
子ども	おいしすぎてたまんね
子ども	(唐揚げが急遽ブリ大根に変わったので) 唐揚げが食べたかった
大人	家では子どもが食べないものをここでは食べる
大人	娘が子ども食堂にお邪魔するのを楽しみにしている
大人	母親にとっても、子どもたちにとってもありがたい場所
子ども	メチャ美味しかった

大人	子どもたちだけでなく家族で月2回の子どもごはんの日を楽しみにしている
大人	子どもが家では野菜を食べないのですが子ども食堂では食べてくれるので嬉しい
大人	(献立に対し) こんなにたくさんの種類?
子ども	(サンタさんに) 帽子がな〜い、おじさんだ〜

表4 コロナ禍の利用者の声

コロナ以降	
大人	職場が老人ホームで年中無休の仕事&母子家庭で休むわけにはいかないの で、中村さんのお気持ちとても嬉しい。
大人	母親が看護師で夜勤がある仕事で主人も帰宅が遅く子どもには手抜き料理の 日が続くので中村さんが作ってくださる料理は心がホクホクして有り難い。
大人	主人が年に2回会えるかどうかの単身赴任中で周りに親戚もおらずお弁当が あればお願いしたい。
大人	犠牲が一番の生活弱者に向かっている気がします。お心遣いに感謝します。
大人	子どもが次の参加を予定表に書いて楽しみにしていました。娘と父親の二人き りなのでよろしくお願いします。
大人	心の子どもごはんは〇家の子どもたちにはささやかならぬかなりの楽しみに なっています。先日の五目ご飯について、我が子供達は"ほったが落ちる くらい美味しい"と表現して喜んでおりました。ありがとうございました。
大人	前回のお弁当、ゆっくりと味わって頂きました。涙が出る程に美味しく、心 と身体がじんわりと温まりました。
大人	子どもたちはお肉大好きでペロリと食べました。ご馳走さまでした。
大人	小学校に入学しても行けれなかった学校に喜んで行ってます
大人	小学校に入学しやっと思える様になったのに左手を骨折してしまい字がうま く書けないで子もイライラしてる
大人	家ではつくりたくない天ぷらとかが子供が食べたいと言っております。おてふき がなかったのでデザートのおぶどうが食べた後手がふけなかったです。お手ふ きは持参するのでこれからも大丈夫です。他の方が心配です。
子ども	シーフードカレーがおいしかったです (大きなシーフードがいっぱい入っ ていました)
大人	子ども食堂&フードパントリーは少子化対策になると思います。(日本の子 どもが、減少しませんように願います。) 手作りの栄養のある食事が低価格 で食べれるので子ども食堂にはとても助かっています。

大人	カレーがすごくおいしかったです。シングルで3人の子を育てていて、毎日家事に追われる中、こういった事業は本当にありがたいです。久しぶりに家に帰った後ゆっくりできます。
大人	大変いつも美味しく、和やかな雰囲気、子供達も毎回楽しみにしております。コロナ禍で大変な時期ですが、応援シテおります。
子ども	おいしかった！好きなメニューは、今日のカレーごはん、嬉しかったことは私が来なかったときの分のおみやげを取っておいてくれたことです。
大人	いつも、おいしいご飯をありがとうございます。まだ数回しかいただいてませんが、毎回美味しくいただいております。好きなメニューはカレーですね。ただ、もし可能ならば、子どもに合わせて甘めにしていただけたらと思います。また、遠くから来ているので（同じ守山区ではありますが...）駐車場があるのも、とてもありがたいです。
子ども	楽しかったこと・流しそうめん体験・クリスマスケーキ作り・2階でのコンサート 好きなメニュー・とりのからあげ・ハンバーグ・パンやお菓子

子どもの声は、コロナ以前コロナ禍に関わらず料理に対しての声がほとんどで、とくにおいしいといったポジティブな声が多い。大人の声に関してもコロナ以前ではおいしいといった料理への感想が多いが、コロナ禍では特に子ども食堂への感謝の声が多くなっている。継続的に参加するうえで生活の一部となっていた子ども食堂が、コロナ禍になり改めて子ども食堂の存在のありがたみを再確認した人が増えたのだろう。コロナが今後いつまで続くかわからない不安な世の中で子ども食堂が利用者のよりどころとなり居場所としての機能が顕著になっていると感じた。

3.1.3 コロナ期間での取り組み

・心の朝ごはん

夏休みにも両親が働く家庭に向けた取り組み。コンビニ商品や、菓子パンで食事を済ますのではなく、「心の子どもごはん」で出来立ての温かいご飯をみんなで食べられる。食事以外にも時間内であれば、夏休みの宿題をすることもできる。食事の提供だけでなく、居心地の良い“居場所”を作ることが重要だと感じた。

期間：7月22日～8月31日までの月・水・金曜日の朝9時～11時

費用：子ども無料 大人100円

時間内であればいつでも連絡なしで誰と来てもよい。

・フードパントリー

食料品の無料配布。誰でも参加可。1家族1袋の制限あり。子どものみでの参加も可。無くなり次第終了。袋の内容はインスタント食品、菓子パン、レトルト食品、ジュース、お菓子など各企業からの寄付品の詰め合わせ。

期間7月24日～8月14日までの金曜日の9時30分～11時

3.1.4 参観記

参加日：2020年10月17日土曜日

約1年ぶりに参加させて頂いた。何度もお見かけしたことのある家族のお客さんもいれば、今日初めてだというお客さんもいた。新型コロナウイルスの感染リスクを避けるため、お客さんの人数を制限しており、18時～と19時～の2回転のみだった。毎回たくさんのお客さんからの予約が入るので、全員を受け入れきる事は困難である。その為、コロナ禍で定着したお弁当のテイクアウトも今後増えていくという風にお聞きした。

過去に何度か参加したときは気づけなかったが、「心の子どもごはん」にはひとり親家庭の利用者が多く感じた。今回が初めての利用者の方がシングルマザーの方だった。Facebookを通じて知ったというその方は、サンクスカードに「3人の子を育てていて、毎日家事に追われている中、こういった事業は本当にありがたいです。久しぶりに家に帰ったあとゆっくりでます。」と綴ってくれた。そして中村さんに次回以降のことも聞いて子ども食堂を後にした。この時私は初めてこの活動の“助けになってほしい人に届く瞬間”を見た気がした（今まで気づけなかっただけかもしれないが。）。今まで感じたことのない何かを感じた。そして自分がしているこの活動がまたその届くべき人に届いたことに嬉しさを感じた。この時のことが、私がこれからまた子ども食堂が望む活動を支援するためのきっかけになり得ると思う。

地域食堂“サンクス”

「地域食堂“サンクス”」は2017年5月24日から開始した子ども食堂だ。代表の山崎晃代さんは2007年10月に認可外保育所「キッズハウス ひよっこ園」開園し、全ての子どもを支えるため、地域の方達が気軽に楽しむ場を作るため、また卒園児や卒園した保護者の方々と交流をしたいという想いから2012年2月に「NPO法人 アット・ユア・ホーム ひよっこ」を設立された。現在は「ひよっこ園」の施設の引っ越しに伴い、園名を改め「沖村ひかり園」と「宮前ひよこ園」の2カ所の保育所を運営されている。山崎さん自身も保育士の資格をお持ちで、園の先生方と一緒に子ども食堂を開催している。私は2018年10月25日の回から参加させて頂いている。私がボランティアに参加する事となったきっかけは、2018年度に私たち成先生のゼミ生で「子ども食堂利用者・主催者アンケート」を作成し、各ゼミ生が愛知県内の子ども食堂をそれぞれ担当しアンケート調査を行った。その時に私が「地域食堂“サンクス”」の担当になり、山崎晃代さんにインタビューさせて頂いたのがきっかけになる。

表5 地域食堂“サンクス” コロナ期のスケジュール

地域食堂“サンクス” コロナ期のスケジュール	
2020年2月27日	全国一斉休校 第34回子ども食堂
3月13日	子ども食堂の開催中止のお知らせ
4月10日	愛知県緊急事態宣言
4月20日	お弁当の配布決定のお知らせ

4月25日	第1回お弁当の日
5月14日	国の緊急事態宣言解除
5月24日	第2回お弁当の日
5月25日	愛知県独自の緊急事態宣言解除
6月21日	第3回お弁当の日
8月23日	第4回お弁当の日
9月27日	第5回お弁当の日
10月25日	第6回お弁当の日
11月15日	第7回お弁当の日予定日

3.2.1 「地域食堂“サンクス”」の5つの課題調査

① 場所の確保

コロナ以前は「北名古屋市健康ドーム」、「総合福祉センター もえの丘」、「名古屋芸術大学アーツスクエア（勤労文化会館）」の3か所の調理室を借りて開催していた。



←勤労文化会館 料理室



←もえの丘 栄養指導室

現在「もえの丘」の調理室は10名以上での使用が禁止されており、他2カ所は解放されているが、コロナウィルス感染防止の為に子ども食堂の開催は自粛している。その為、「沖村ひかり園」でお弁当を作り、配布するという形態をとっている。「沖村ひかり園」は山崎さんが運営している非認可保育園の2つの内の1つだ。建物は2階建ての一軒家で子どもたちが広々と遊べるくらの庭も併設されている。お弁当の日当日は、室内を広く使って約100食分のお弁当を作る。スタッフ全員に役割がいきわたり、それぞれが空いているスペースを活用して調理や作業を進めることができる。場所の確保については問題ないとみられる。

② 資金と食材の確保

食材はコロナ以前から寄付支援を受けている企業が幾つかあり、その企業からの支援が変わらず継続されている状態である。寄付される食材も企業によって米、野菜、肉と偏ることなく栄養バランスの取れた彩り豊かな食事を提供する事が出来ている。八百屋さんの

店主の友人の社長さんが子ども食堂支援として、その八百屋さんから1万円分の寄付をしてくれる。

③ 地域との連携

北名古屋市NPO法人の子育て支援の一環として活動している「ちゃん子～子どもの居場所～」と共同でイベントを行っているがこちらの「ちゃん子」の使用施設が3月から10月まで利用できないため活動できていなかった。普段ちゃん子では子どもたちと一緒に料理を作って食べたり遊びの場を作っている。子ども食堂に比べて子どもたちも参加できる取り組みが多い。10月から再開した「ちゃん子」では、フードパントリーとして寄付していただいた食材を配布する活動を行っている。

④ 人材の確保

スタッフは「宮前ひよこ園」、「沖村ひかり園」の先生方である。先生方のほとんどが30代～40代で感染リスクの高い高齢者スタッフは1人である。毎回7～8名のスタッフが参加しお弁当の日を開催するに至らない程の人数不足が起こることも無い。普段保育園で子どもたちが接している先生がスタッフなので、先生に会いに行く＝子ども食堂に行くきっかけにもなっている。

⑤ 感染症対策を含むリスク管理

感染リスク回避のために以下のことを行っている

スタッフの調理時の除菌

調理器具の除菌

マスクを着用しての調理

3.2.2 参観記

参加日：2020年10月25日 日曜日

「地域食堂“サンクス”」には2018年11月28日以来の約2年ぶりの参加だった。以前私のバイト先に先生方が遊びに来てくれたこともあり、大変よくしてくださっている間柄だ。久しぶりにも関わらず、歓迎してくださりととても嬉しかった。とてもアットホームな雰囲気でも先生方には元気をもらおう。私は野菜を切ったりコロケの形を整えたり、お弁当を並べたりと常に役割を与えてもらえ“スタッフの一員感”を感じられた。この“スタッフの一員感”を感じられることは、子ども食堂に参加するうえで重要なことだ。子ども食堂は利用者への一方的な慈善活動ではない。ボランティアとして参加し、支える側でありながらその行為を通じて誰かの為になっているという充足感を得ることが参加意欲に直結する。このことから子ども食堂が利用者だけでなくスタッフにとっても“居場所”の役割を果たしているのだ。単に、子ども食堂がなくなる未来＝貧困問題の解決にはならないと改めて感じた。

コロナ以前の形態と比べて良いと感じたことは、洗い物が少ないことだ。13時からお弁当の準備を開始して16時30分ごろにはお弁当を作り終え、後はお弁当を取りに来る家族を待つのみ。後は17時からやって来る利用者にお弁当を順次渡すのみだった。以前だと、利用者が帰るまでほとんどの食器を洗うことは出来ず全員が帰ってやっと残っている作業を始める。そういった点から、以前の忙しさが減ったことは良いことだと感じた。逆に負担になっていることは容器の費用が掛かることだ。今までは施設の食器や保育所で

使われている食器を使っていたが、お弁当形式になったことで使い捨ての容器の購入が必要になった。先生方も「意外と容器が高い」とおっしゃっていた。

良い点と負担の要因がまさに表裏一体である。新たに容器を寄付できる団体、企業が見つければ「地域食堂“サンクス”」に限らず、お弁当を作って渡す形態をとっている子ども食堂の活動の支援につながると感じた。

今年度は出来る限り「地域食堂“サンクス”」にボランティアとして参加していこうと思った。

3.3 2つの子ども食堂の5つの課題の比較の整理

上記をもとにコロナ禍の5つの課題の比較表を作成した。

表6 心の子どもごはん地域食堂“サンクス”のコロナ禍の活動比較

	心の子どもごはん	地域食堂“サンクス”
活動形態	コロナ前：子ども食堂のみ コロナ禍：子ども食堂と持ち帰りのお弁当の並行	コロナ前：子ども食堂のみ コロナ禍：お持ち帰りのお弁当のみ
子ども食堂中止/再開の時期	中止 2月28日→お弁当で再開 3月7日→中止（2回目）4月28日→お弁当再開 6月6日→子ども食堂再開 7月4日	中止 3月13日→お弁当で再開 4月25日
① 場所の確保	コロナ前：自営業の飲食店の店舗 コロナ禍：影響なし	コロナ前：市の調理室がある施設 コロナ禍：運営している保育施設
② 資金と食材の確保	コロナ禍でも子ども食堂開催に必要な食材、資金が寄付によって間に合っている	コロナ禍でも企業による食材の寄付が行き届いている
③ 地域との連携	愛知子ども食堂ネットワーク	
④ 人材の確保	コロナ前：7～8名のスタッフ コロナ禍：影響なし	コロナ前：5～7名のスタッフ コロナ禍：影響なし
⑤ 感染症対策を含むリスク管理	<ul style="list-style-type: none"> ・密を避けるため1テーブル1家族のみの利用 ・利用後のテーブルはアルコール消毒を徹底 ・18時代と19時代の2回に分けて案内 ・1回目の後に除菌や換気 ・参加者の入室前の手洗いの協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの調理時の除菌 ・調理器具の除菌 ・マスクを着用しての調理

開催中止時期は「心の子どもごはん」2月28日、「地域食堂“サンクス”」は3月13日か

らだ。どちらも全国一斉休校要請直後に中止を決定している（「地域食堂“サンクス”」は要請当日が開催日だったため、翌月から中止）。コロナの拡大が休校の形となって多くの利用者に影響を及ぼしたため、“安全性”を考慮してどちらも中止を余儀なくされた。その後、お弁当の持ち帰りの形態をとり再開。利用者に小中学生がいる家庭の多い「心の子どもごはん」では、給食の代わりに栄養ある食事をという思いから通常月2回の開催であるところを毎週土曜日に限定30食でお弁当を配布。しかし緊急事態宣言の発令後、中村さんご夫妻が高齢者ということもあり、感染拡大防止のためお弁当も中止となった。6月に緊急事態宣言が解除されお弁当が再開し、7月に感染症対策をしながらの子ども食堂の再開に至る。「地域食堂“サンクス”」は現在まで子ども食堂の再開は出来ておらず、お弁当の配布の形態を継続している。

食材の確保については、これはどちらの子ども食堂も企業や繋がりのある地域団体、フードバンクなどからの寄付により十分に行き届いていた。人材の確保についても、コロナ以前から毎回参加されているスタッフがそろっているため、人手不足ではない。

感染症対策を含むリスク管理については、どちらも器具やスタッフ、利用者の除菌など基本的な感染対策はもちろん、「心の子どもごはん」はその日の利用者を2回に分割して店内に入れ、店内の人口密度を減らす工夫がなされている。「地域食堂“サンクス”」は普段から園児と接しており常に感染対策には気を付けている。運営スタッフの徹底した配慮により安全に利用者へ料理が提供されている。

3.3 5つの課題から見た子ども食堂再開への分け目

現在の活動形態について、この2カ所の子ども食堂が再開出来ているか出来ていないかを分ける要因は“開催場所の確保”と“規模”である。「心の子どもごはん」は中村さんご夫妻が営まれている「喰い処“心”」の客席と図書スペースを使って利用者の飲食スペースとしている。4テーブルを2回に分けて回しており、一度の開催に8家庭程が参加できる。一度に参加できる家庭は限られ、父子家庭、母子家庭を優先することもあるが、毎回参加できる家庭が偏らないよう前回参加できなかった家庭を優先するなどの工夫がありできるだけ多くの家庭が参加できる仕組みになっている。

一方、「地域食堂“サンクス”」は通常時の開催場所が現在使用不可となっている。その為現在は保育園でお弁当を作り、玄関で渡すという流れだ。1度で100食以上用意することもある「地域食堂“サンクス”」で対面式の子ども食堂を開催するには、広いスペースと調理場が必要になる。北名古屋市が調理場の使用許可を出さない限り子ども食堂を開催できない。しかし、調理場が解放されても広いスペースで沢山の人が集まり食事や話を交わすことになると、感染症のリスクも高まる。その為、子ども食堂の再開の目途が立たない状況だ。

4 子ども食堂がウィズコロナに適応するためには

本稿では、開催場所の広さと参加希望者の人数のバランスは重要で、その開催場所が運営者の所有する建物であると、コロナ禍でも子ども食堂が開催しやすい環境であることが分かった。そして比較的参加人数の多い子ども食堂では食材やスタッフが充実していても子ども食堂を開催することが困難になる。名古屋市昭和区の「西福寺おかげさま食堂」も

同様に、参加規模の大きい子ども食堂だ。最近まで、子ども食堂は開催できずお弁当販売やフードパントリーとして活動形態を変えてきた。しかし先月は、一部の参加者はその場で食事を取れるような形態を取り入れた。その際に飛沫防止のため一方向に並ぶような席を作った。このように、様子を見ながら少しずつ本来の子ども食堂に近づく取り組みを導入していくのも一つの手だと思った。また、感染症防止のため、居場所としての機能は発揮しにくいがお弁当を安価で食べられることに変わりはない。栄養のある食事がとれ、料理や洗い物をする時間を省けることは、忙しい親にとって助かるのではないだろうか。むしろ家に持ち帰ってゆっくり食事したいという家庭もあるだろう。

また、コロナ禍の各子ども食堂で定着しつつあるお弁当を利用して、一度に子ども食堂を利用できる人数限度を増やせば各食堂の規模以上の利用者を見込める。コロナ禍の子ども食堂が負の側面だけではないと感じた。そして、心の子どもごはんのように長く続く子ども食堂には、中村さんのように活動の先頭に立って居場所を作ろうとする方々の志があってこそ成り立っている。私たちが経験したことのないこの未曾有のパンデミックの最中、この期間でも子ども食堂という居場所を守るべく、活動の形を変えてこのご時世に適応していく方法もあることも分かった。コロナウィルスが収束して元の姿になることが望ましいが、いつまで続くのか不透明なこの状況に適応していく子ども食堂を支援する側も形を変えて関わっていくことが必要だ。

参考文献

- ・心の子どもごはん Facebook (2020-12-15 参照)
- ・地域食堂サンクス Facebook (2020-11-25 参照)
- ・NPO 法人アット・ユア・ホーム <http://hiyokokko.com/> (2020-11-15 参照)
- ・北名古屋市市役所ホームページ (2020-11-15 参照)
- ・愛知県“事業者の皆様へのメッセージ(緊急事態宣言等)”(2020-10-27 参照)
- ・湯浅誠“こども食堂全国箇所数調査 2020 結果のポイント”NPO 法人全国子ども食堂支援センターむすびえ (2021-1-25 参照)

謝辞

本論文の執筆にあたり、多くの方にご支援頂きました。私をボランティアとして快く引き受けてくださった心の子どもごはんの中村千加子さん、地域食堂“サンクス”の山崎晃代さん、スタッフの皆さんには大変お世話になりました。皆さんの心の温かさに、私も励まされました。子ども食堂が今後も心の温かさで人と人を繋ぐ場所であることを願っています。最後になりますが、本調査の趣旨を理解し快く協力していただいた、アンケート調査の対象者の皆様、学校生活で支えてくださった教務課の近藤匠さん私を見捨てずに励ましてくれた家族、友人に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。